



愛知淑徳大学

## ジェンダー・女性学研究所

INSTITUTE FOR GENDER AND WOMEN'S STUDIES

## Newsletter

第15号

URL=<http://www2.aasa.ac.jp/org/igws/index.html>

発行年月日：2003年3月20日

〒480-1197 愛知県愛知郡長久手町長湫片平9

Phone 0561-62-4111 EX 498

FAX 0561-63-9308

E-mail : igws @ asu.aasa.ac.jp

2002年12月7日、当研究所主催シンポジウムを本学にて開催した。「セクシュアリティ/ナショナリティ/人種から映画の表象/表現を考える。ほら、けっこう、社会が見えるでしょ。」と題し、岩田和男教授（愛知学院大学情報社会政策学部）、鶴殿えりか教授（愛知県立大学文学部英文学科）、外岡尚美助教授（青山学院大学文学部）の3名をお招きして、日本、アメリカ映画を考えた。大衆文化の代表である映画の表象/表現は社会秩序をどのように反映しているのだろうか。権力を持つ者、持たない者との位置づける政治的/社会的構造に、映画はどのような役割を持っているのだろうか。表象の政治的特質を分析することから、映画が私たちに与えている影響を考えてみるために、アメリカ文学と映画批評も含めた文化研究の領域から報告をしていただいた。以下、その報告とその後の討論の概要を紹介する。また、今号では、故松井やよりさんの思い出を掲載した。

「3点セットで日本映画を考える 日本映画におけるセクシュアリティ/ナショナリティあるいはネーション/人種」

岩田 和男

セクシュアリティ、ナショナリティ、ネーションの3点セットで日本映画を考えるのは難題である。マニアックな映画を除くと、ホモセクシュアリティが主題に深く関わる作品は大変少ないし、ヘテロセクシュアリティを描くほとんどの作品も、大半はセックス・オンリーの風俗か、あるいは性愛を審美的に描く情緒へ傾くかのどちらかだからである。ネーションが絡む例外もあるにはあるが、その関わりの表現は間接的で、背景がそれをほのめかすだけということが多い。

なぜこうなるのか。ネーションという問題系は、民族的な差異が絶対的な意味を持つ他者との出会いから発生するはずなのに、日本映画には、その意味における他者がそもそも登場しないからである。そういう他者が日本社会に存在しないということではもちろんない。日本映画に見られないだけである。その意味で、国家の問題とは、日本映画が「語り/表現し得ないもの」の中に入るのかもしれない。苦手なテーマだというわけだ。3点セットの中味をセクシュアリティからジェンダーに代えても、俎上にのせるべき作品の数はいくらか増えるものの、傾向は変わらない。

(P2へ続く)

## 新所長挨拶

ジェンダー・女性学研究所所長

現代社会学部教授

石田 好江



この度、國信潤子先生の仕事を引き継ぎ、愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所の所長を引き受けさせていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願ひいたします。國信先生には引き続き運営委員に加わっていただき、とりわけ、先生のご尽力で拡がりつつある本研究所と海外との情報交流につきましては、全面的にサポートしていただくことになっております。

本研究所も、本年10年目という区切りの年を迎えます。この10年間を振り返ってみますと、女性学やジェンダー教育・研究が日本の大学に根をおろし、拡がってきた一方で、この1~2年はその反動でもあるバックラッシュも各地で起こっています。そうした意味では、女性学・ジェンダーフリー教育においても、何らかの見直しが求められているといえます。本研究所においても、この区切りの時期を、女性学・ジェンダーフリー教育をさらに浸透・深化させるための新たな理論や方法論を探り、発信できる機会にしたいと考えております。皆様の引き続きのご支援をよろしくお願ひいたします。

(P1より) しかし、戦争は、日本映画が「語り/表現し得ないもの」をいくらか可視化するきっかけになった。だから、ジェンダーをセットに考えるべき映画の中には特筆すべき作品がいくつかある。言うまでもなくそれらは在日朝鮮人の問題や、アメリカ黒人との間に生まれた混血児の物語を扱った映画である。今回は、時間の制約もあって、在日朝鮮人問題については戦前のケースを少し見るだけにして割愛し、一つはアメリカ黒人兵と日本人との間に生まれたキクの話、もうひとつは、一見ネーションとは無関係に見えるハンセン病患者の描き方に、例外的に強い国家批判を描いている、そういう「抵抗」の場面を今井正の映画の中から見ることにする。それでも、外国映画と比べると、ネーションが「語り得ない」ものとして刻み込まれている感は強いのだが。(愛知学院大学 情報社会政策学部教授)



講師 岩田和男さん

### 「映画『模倣の人生』にみる人種とジェンダー」

鵜殿 えりか

ジョン・シュタール監督の映画『模倣の人生 (Imitation of Life)』(1934)と、そのリメイク版であるダグラス・サーク監督の『模倣の人生/悲しみは空の彼方に (Imitation of Life)』(1959)を、比較分析してみる。

シュタールの作品は典型的なハリウッド・メロドラマ映画(Hollywood domestic melodrama)であり、メロドラマ映画の文法に添った筋立てによって構成されている。メロドラマの文法(女主人公、夫/恋人とのロマンティック・ラブ、子どもへの愛、自己犠牲の栄光など)が、家父長制社会の要請をそのままなぞったものであることは言うまでもない。一方、サークの作品では、前作品のメロドラマ性が批判的に再演され、作品自体がメタメロドラマとなっている点が指摘されている。すなわち、サークの作品では前作品をメロドラマたらしめている要素が巧妙にズラされているのである。

しかし、両作品において、道具立ての一つにすぎないはずの人種問題が、おそらく監督の意図に反して、これらの映画をメロドラマ/メタメロドラマ以外のものに行っていることがわかる。二人の母の苦悩と最終的な和解というダブルプロットの筋立てが機能しなくなっているのである。

(愛知県立大学 文学部英文学教授)

『エイリアン2』と『インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア』: ゴシック・ホラー映画に見るセクシュアリティ/ナショナリズム/人種

外岡 尚美

ホラー映画は、人間が無意識に抑圧されたものが、外側の「モンスター」に投射されるジャンルである。大衆娯楽ジャンルだが、人がホラーに惹かれるのはまさに、抑圧されたものが、モンスターの形を借りて繰り返し回帰するのを見る快樂のためだろう。『エイリアン』シリーズは70年代のフェミニズムを背景に「闘う女」リプリーというフェミニスト・ヒーローを生み出し、『インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア』は90年代のゲイ・レズビアンの子カルチャーとクイア理論の展開を背景に、モンスターをジェンダーとセクシュアリティのカテゴリーを攪乱するファッショナブルなクイア=変態として描いた。大衆娯楽作品は時代の空気になにより敏感だ。一方で、表層の敏感さとは別なレベルで、この二つの映画がとらえるのは、近代的家父長制と国民国家の崩壊に伴う保守的な危機感と不安である。モンスターの生殖を描く『エイリアン』シリーズと血液によるエロティックな「生殖」を描く『インタビュー』は、どちらも性的エネルギーをモンスターに投射しつつ、女性のセクシュアリティを徹底して抑圧する。前者ではナショナリズムと人種間の闘争が女同士の争いに置換され、後者ではナショナリティと人種のカテゴリーを攪乱するはずの異種混交性が見事に抑圧される。最終的に2作品はセクシュアリティなき擬似家族のイメージを補強することによって、近代家族と国民国家のシステムを根底で支持するのである。(青山学院大学 文学部助教授)



講師 鵜殿えりかさん(左)、外岡尚美さん(右)

## ポピュラー・カルチャーの映像分析 ～かいまみる文化的表象～

山田 久美子

子どもの頃から親しんできた映画は、ビデオ・DVDなどの普及によりますます身近なものとなり、いつでもどこでも見られるようになってきた。映画は、時には感動を与えてくれるものであったり、人間の喜怒哀楽の情緒に訴えるのものであったりする。しかし、1970年代から、商業ベースの娯楽映画であっても、映画評論家だけが映画評をするのではなく、分析され得る学問として取り上げられるようになってきた。映画から、さまざまな文化的背景、時代の象徴を読むだけではなく、当たり前のように受け入れている映像や無意識のうちに描かれている映像を分析することで、さまざまな状況が意識化に映し出されることになる。今回のシンポジウムでも気づかされることが多く、映画には、大変多くのメッセージが包含されていることを感じさせられた。

今回のシンポジウムは、テーマにある通り、セクシュアリティ、ナショナリティ、人種などがどのように映画に描かれているか、社会通念や観客にどのような影響力を持っているかなどをマイノリティの視点から文化的に捉えるというものであった。

岩田和男先生は、日本映画を題材に、まず、セクシュアリティ、ナショナリティ、人種という問題は、日本では従来は描くのが難しいということを示唆された。しかし繊細な表現で民族問題は映画に表現されている。次に、鶴殿えりか先生は、ジョン・シュタール監督の『模倣の人生』(1934)とダグラス・サーク監督のリメイク版『模倣の人生の悲しみは空のかなたに』(1959)を比較分析された。この作品は感動的な映画として知られているが、黒人女性と白人女性の2組の母娘の物語をダブルプロットで描き、女性における人種という観点から問題提示された。文学におけるジェンダー批評のようにプロットからの考察であり、理解しやすい分析であった。外岡尚美先生は、『エイリアン』のシリーズと『インタビュー・ウィズ・バンパイア』を取り上げられた。このような娯楽映画から、フェミニズムの時代、ゲイ、レズビアン解放の時代などの文化的背景を読み、近代家父長制と国家崩壊の危機に関係づけることによって鋭く分析された。

大変興味深い映画分析ばかりであったが、日本映画が一番馴染みがなく、そのためか新鮮な感じがした。私自身が日本の歴史や文化を映画から実感することになった。たとえば、日本社会が神、神道、仏教の影響が強いために、ホモセクシュアリティが関わっている作品は少なく、『戦場のメリークリスマス』ぐらいしかないと、国家的な

問題は戦前の国家主義により表現し難いため、ネーション/ナショナリティが絡む映画が少ない、あっても間接的であったりすることなどである。また、日本は単一民族ではないが、他者(=民族)と出会いが限定的であるということも岩田先生は述べられた。確かに、日本では、映画に限らず、ホモセクシュアリティが関わっているものは少なく、あっても極最近に大島渚監督がとりあげているが、例としては少ないようだ。このようなお話を伺いながら、昔見た、『サテリコン』を思い出した。映画通の間では、評価され、話題になった映画である。古代ローマ時代を描いた映画でストーリーもなく、「何だこれは！」というのがその時の感想であったが、ホモセクシュアリティも関わっていた映画だったように思う。もう30年以上も前のことである。当時、ホモセクシュアリティを扱った外国映画はあっても、日本映画では製作されることは今までは少なかったと言える。

具体的に映像による分析提示をされた作品は、『有りがたうさん』(1936)と『キクとイサム』(1959)であった。古い日本映画には馴染みがない私も、シンポジウムのテーマを離れて、しみじみとした気分で映像に見入ってしまった。『有りがたうさん』は古き良き日本という感じがするが、在日韓国・朝鮮人の一団と出会うシーンは、人種を提示する良い例だが、ネーションの問題を取り上げる視点が介在していることがありそうには見えない計画的象徴であるとのこと。『キューポラのある街』も映像提示はなかったが、具体的には在日韓国・朝鮮人の問題を提示された。さらに『キクとイサム』は、アメリカ黒人との間に生まれた混血児キクを中心に、農村の人種的偏見や差別を描いた映画らしいのだが、キクがジェンダー規範から逸脱する女の子、つまり、大変大柄でわんぱくな女の子であることが映像によって示されキクを暖かく見護る祖母が見事に描かれたものであった。

日本映画が不調で、日本映画よりも外国映画を見るという日本人が多い現代、日本映画は、日常生活を当たり前映像で示す。そのことは、ドナルド・リーチが『日本の映画』の中で「日本の表現形式に 何も起こらない状況 が生まれる」と述べていることに関係しているような気がする。つまり日常の些細なことを映画における重要な出来事と同じように扱っているということである。しかし、そのような映画の中にこそ、作品のテーマや監督の意図とは別に、その時代の文化的表象に気づかされる。

(本学 非常勤講師)

## 映像からみるジェンダー・ネーション



12月7日のジェンダー・女性学研究所主催のシンポジウムは実に興味深い内容でした。それは私の持つシンポジウムの資料を見ればすぐに分かります。余白にぎっしりと発表者の意見や参加者からの意見などが書き込まれていて一字一句聞き漏らすまいとしているそのときの自分が思い出されるからです。映画の表象/表現をセクシュアリティやネーション、人種から考えるというのは、授業の中では英語の授業ぐらいでしか映画に触れることがなかった私には非常に新鮮でした。岩田先生の発表では、在日朝鮮人やアメリカ黒人と日本人の間に生まれた混血児を描いた作品から、日本におけるネーションとの関係が映像の随所からみえてきました。鶴殿先生の発表ではアメリカの黒人女性と白人女性の母娘関係を中心に据えた作品から、アメリカにおける人種とその混血とジェンダーの絡みが指摘されました。外岡先生の発表からは、ホラー映画として新しい時代の映画で、よく知られている身近な題材『エイリアン』から、鶴殿先生とは異なった視点のアメリカにおける空想の宇宙時代のジェンダー関係と

鈴木 清花

女性のセクシュアリティが読み解かれました。人種とジェンダーの重層的関係が浮かび上がり、それぞれに作品の舞台となった社会の根底にあるものを見せられた感じがしました。特に外岡先生の『エイリアン』に関するお話には非常に引き込まれ、アメリカの文化や社会、そして映像表現に興味を持ちました。

今回のシンポジウムで、セクシュアリティやナショナルリティ、人種という視点から映画をのぞいてみるとそれぞれの映画の背後にある今まで気にも留めなかった社会が、まるで心理学者が様々な理論(という名の補助線)を用いて目には見えない心というものを明らかにしていくように見えてくるのだということがわかり、大変刺激的でした。そして、それと同時に、ではなぜこのような視点から見ると社会が見えてくるのかという疑問が湧いてきました。そしてそれはそれぞれの社会の核にこれらの概念があり、社会を構成する意識が映像に表現されているからではないのだろうかと考えました。

ジェンダーやセクシュアリティは「個人的」なことであると同時に、社会を構成する広く共有された価値観、概念的要素であるという視点は今後の私たちの社会を自分で考える上で重要なものになると思います。このシンポジウムを新たなステップとして今後に役立てたいです。

私はまだまだ未熟者で、シンポジウムの中身もはつきりいって半分もわかっていないのだろうとは思いますが。ジェンダーと出合って三年目。また学問の面白さを知りました。ありがとうございました。

(桐山文学園大学人間関係学部人間関係学科心理学専攻 3年)

## IGWS ホームページ充実のお知らせ

ジェンダー・女性学研究所のホームページを充実させる作業を平成15年1月より行っています。当ホームページは、1998年5月に開設しました。当初は日本語版だけでしたが、その後に英語版も加わりました。国内を始め、国外からの問い合わせや情報ネットワーク、文献情報等のリンクも増えています。独立行政法人国立女性教育会館をはじめ、地方自治体生涯学習施設等と連動しています。多くの研究者、学生や一般市民の方々にお役に立てていただいております。

今回のHP改訂と内容の充実は、今までの資料データを更に見やすく、分かりやすく、かつ読者各自が印刷して活用できるよう色使いやレイアウトを工夫しました。研究所内や学生の活動状況などの写真も入るようになりました。4月にアップデート致します。ご期待ください。HPのアドレスはURL=<http://www2.aasa.ac.jp/org/igws/index.html>です。

## 教職における総合演習とジェンダーの視点

富安 玲子

§ 「総合学習」の開始と本学の教職科目「総合演習」知識量に偏りがちな従来の「学力」ではなく、自ら課題を見つけ、学び、考える力など「生きる力」を育てるために、小中学校で2002年度から「総合的に学習の時間」が導入され、高校でも2003年度から始まるようとしています。これらが盛り込まれた新学習指導要領の改訂に呼応して教職免許法も改正され、総合学習に対応するための「総合演習」が必須となりました。それを受けて、本学も1999年度カリキュラムを改訂し、3年次に必須の総合演習が2001年度から夏期および春期集中という形で開講されるようになりました。

「総合学習」が教育現場で戸惑いを持って迎えられているように、大学においても「総合演習」の取り組みはさまざまですが、本学では、教職担当の専任教員8名によって示された、「いじめ問題」「生涯学習における学校」「社会と子育て」「ジェンダーと教育」等、8テーマから、受講生は関心のあるテーマを選択し、ゼミ形式で学習が行われています。

### § 「ジェンダーと教育」の実際

私が担当した「ジェンダーと教育」では、2002年度夏期集中の場合、約3時間の全体会と約16時間のゼミでの講義・発表・討論の時間をもちました。16名の受講生のうち、本学教養教育科目「ジェンダーと社会」「女性学・男性学」等ジェンダー関連科目の既履修者は約半数で、そこでの学習を更に教育の領域で考えようとしていました。後の半数の人たちは、就職活動の展開に伴って男女平等意識について考えていきたい、親からの期待のされ方が兄弟と違うことに違和感をもって来た、あるいは、学校で教師の言動に男女差別を感じて来た、等を受講動機としてあげています。

総合演習は、総合学習の授業方法を学ぶことを第一義とすることも考えられますが、自らが問題意識を明確にして課題に取り組むことの意味を見出すことを当面の目的としていきたいと考えています。従って、ジェンダー問題を学校教育の中だけで捉えるのではなく、学校を取り巻く環境にもアンテナを張ることが重要であることの認識に立ち、次のように学習が進められました。まず、各自のジェンダー・チェックから始めて、当たり前になっていることに疑問符を付けることから見えてくることを探り、「男らしさ」「女らし

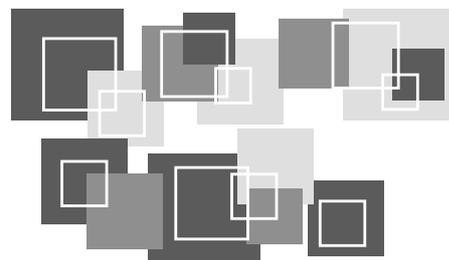
さ」がどうして問題なのかを検討することによって、ジェンダー・フリーの意味を考え、「学校にジェンダー・フリーの風を」の合い言葉の必要性を考えていきました。

このような概説と討議を踏まえた上で、自分は「これからどのように考え、行動していったらいいか、生徒たちがこの問題に取り組む時、どのような働きかけができるだろうか」をレポートに纏めることになりました。16名のレポートのサブ・テーマについては、性差を問い直した人3名、家庭の中で形成されるジェンダーを取り上げた人2名、学校の中でのジェンダーにスポットを当てた人5名、そして、社会とジェンダーの観点を取り上げた6名のうち、言葉に焦点を当てたのは2名、メディアの領域から考えたのは1名、労働・職業問題から論じたのは3名でした。

### § 学校におけるジェンダー・フリーの実践のために

レポートの発表と討論を踏まえて、代表者によって全体会での発表が行われましたが、その要旨は次の通りでした。「最も重要なことは、一人ひとりがジェンダーについての正しい知識をもち、社会的に不利な状況を作り出していることへの認識である。学校では先ず教師のジェンダー・フリーが必要で、今まで「当たり前」と思っていたことに疑問符をつけ、考え直すことが大切である。ジェンダー・フリーは性の区別を何でもなくそうというのではない。固定的で当然のように思われていた「男らしさ」「女らしさ」という男女のあり方がジェンダーであり、差別のない社会を作ることが女性のみならず男性にとっても必要である。」受講生に2名の男性もあり、男女双方の見方も考え合わせつつ、ジェンダーに縛られない、個性や可能性を育てていく教育環境の必要性を確認したことでした。

(本学文学部 教授)



## 本学非常勤講師松井やよりさん追悼 松井やよりさんの“sense of mission”に感謝!

國信 潤子

昨年、2002年12月27日、本学非常勤講師、松井やよりさんがご逝去されました。

松井やよりさんには本学が毎年開講している8月上旬の「女性学・男性学」の集中講座に非常勤講師として1997年以来おいでいただいていた。1995年北京における国連世界女性会議、そしてまたその準備過程で発足した東アジア女性フォーラムなどで私は彼女と一緒する機会があり、その使命感に燃えたジャーナリスト魂にたくさんのエネルギーをいただきました。

本学の非常勤講師を無理をいってお願いしたのは彼女の熱意を学生たちにも伝えてもらいたいと思ったためです。暑さきびしい8月になるとご多忙のなか、名古屋までお越しくださり、熱のこもった講義をしてくださりました。アジア近隣諸国の女性・市民運動を支える人々の状況をグローバルな視野で生き活きと紹介してくださいました。その講義が契機となりグローバルな女性ネットワークに足を踏み入れた人も名古屋に多くいます。

第三回東アジア女性フォーラムモンゴル会議では松井さんとともにモンゴルの大草原で馬にのり、ゲルで宿泊しつつ夜空を見上げた日を懐かしく思い出します。従軍慰安婦問題を国際人権法廷にとりあげ、戦犯法廷を企画・実施した企画力、行動力には誰しもが感銘を受けたものです。また彼女は集中講義の度に愛知淑徳大学のジェンダー・女性学研究所にきて多くの資料を紹介してくださいました。彼女の後を継ぐにはあまりに非力な私たちですが、志を大切に、彼女の熱い思いを心に刻むためにも、今号は本学で彼女の集中講義履修したことを契機に松井さんと交流した方々に思い出の文をいただきました。

松井やよりさんのご冥福をお祈りいたします。

(ジェンダー・女性学研究所所長)

## 松井やよりさん追悼

土井 ゆき子

2002年8月5～7日の3日間、愛知淑徳大学公開講座松井やよりさんによる夏期講習を受けて昨年に続き2回目の受講でした。私と松井さんとの出会いは5年くらい前に名古屋国際センターで松井さんが基調講演、私が3人のパネリストの一人として参加したときでした。そのとき以来、松井さんのお話をもっと聞きたい!とっていました。昨年夏、長久手にある愛知淑徳大学の女性学の夏期集中講座で3日間彼女の講座が受けられるという好機に恵まれました。それ以上に尊敬する人に出会えた!と周りの人に言わずにはいられないほど、その出会いが嬉しかったのです。女性国際戦犯法廷を企画・開催した主と聞いてまたまた感激、その偉業にひれ伏したいほどの思いでした。そんな彼女の年齢を聞いてびっくりあと1年半で70歳という!彼女曰く、苦しいなかでの様々な人との出会い、その友達との関係で元氣を取り戻している。彼女の話のなかで語られる世



故 松井やよりさん  
本学非常勤講師

界の運動家の何人かの人は命がけて運動をしていることを知りました。また、実際命を落とした人も多くいるということでした。松井さん自身も命がけだったと思います。私にはとてもできない勇気と実行力の持ち主だと思いました。集中講義のあと私には「3日間の幸せなアッシーミドル嬢」の体験が今ではよい思い出となりました。夕方、講義のあと、名古屋の本屋さんを案内しました。大切な人だから、もし交通事故でもあったらどうしよう?との不安もありましたが、隣の席でいろいろと話を聞く事が出来、なぜ、今の彼女があるかの原点にも触れた気がしました。身近にいろいろ話しが出来た幸せに浸っております。そのときのお話で心にのこっているのは、「奪う側の日本は、喜びに満ちたものなのか? 南と北、途上国と先進国、ますます貧富の差が広がる今の経済のしくみ。北であり先進国の日本は、南であり途上国である国々を苦しめることによって成り立っている。この経済の仕組みを学び、見直して行く、それが私達日本の子どもたちの未来へ、世界の子どもたちへの未来につながっていく。つなげて行く責任が大人にある。しかも先進国に位置する、また西洋と東洋の間の立場のような日本、被爆国の日本、憲法9条を持つ日本、いろいろやる事が出来る。日本ではできないことがある。」というようなことと理解しました。私の心に深く刻まれた松井さんの言葉でした。

(風's&GAIAの会代表 本学夏季講座 受講生)

## 松井やより先生の思いで

渡辺 敬子

第4回東アジア女性フォーラム2000年9月の台湾会議で、私は、松井やより先生と初めて会う機会を得ました。その時の歓迎式典では、12月に東京で開催予定の「女性国際戦犯法廷」のことを熱っぽく、流暢な英語で、語っておられた先生の姿が印象的でした。戦争と暴力のない、女性の人権が尊重される21世紀を創ることが先生の理想であったと思います。2001年8月には愛知淑徳大学の4日間連続の夏季講座で、「グローバル化と女性への暴力」をテキストに

使い、現地での経験談を聞きました。フィリピン、タイ、バングラディシュ、シンガポールなどで先生が会われた数多くの人のお名前や地名が外国の言葉であるにもかかわらず、先生の口からボンボンとよどみなく出てくる事に、私は妙に感激してしまいました。先生の記憶力の鋭さと、一日6時間以上の講義を精力的にやり通される先生のバイタリティーに正直驚いてしまいました。講義の後、喫茶店で5～6人が集まって先生を囲んでおしゃべりに花を咲かせました。先生の若い時代のことや、家族のことなど、なんでもオープンにお話して下さったことが思い出に残ります。2002年8月、これが私と先生との最後になってしまったのですが、同じ愛知淑徳大学で、夏季講座を受けました。最後に先生の本を買い求めサインをしていただいた時、先生が私に「もう来年は来ないわ。」とおっしゃいました。ふとそう言われた先生の言葉に、きっと夏の連続の講義は体への負担が大きいのではないのかしらと思いました。

女性の連帯のグローバル化をモットーに世界30カ国以上の国の女性たちと国境を超えたエネルギー活動は、松井やより先生の何よりの功績だと思います。(名古屋女性学研究会メンバー 本学夏季講座 受講生)

### 「松井やよりさんの健康回復を願う友人の集い」に参加して

安田 多香子

10月28日16時、私は職場を早退し、新幹線「のぞみ」に飛び乗った。「松井やよりさんの健康回復……の集い」に出席するためだ。私にとって松井さんは親戚の者以上だった。2年連続で受けた愛知淑徳大学の松井やよりさんの夏季集中講義で、私ははっきりと自分のめざすものを見つけることができたのだから。講座は、女性の人権の視点で見た開発のグローバル化から始まり、アジアの人身売買や観光開発の問題、その落とし子JFC(フィリピン女性と日本男性の間の子ども)の問題、そして「女性国際戦犯法廷」と従軍慰安婦の問題へと進み、「21世紀を戦争のない世紀へ」という熱い思いがひしひしと伝わってくるものだった。実際に松井さんがアジア各地を巡り、女性たちに会い、語らって得たものはどんなものよりも私の心を打った。その集中講義のわずか2ヶ月後、松井さんが「末期のがん」であることが判明、その2ヶ月半後に他界されたのだ。惜しい。10月28日にはもっと生きていて欲しいという思いでいっぱいだった。東京四ツ谷の会場に着くと、満員で入れ替え制になり、前半の様子はビデオで見た。その時の松井さんは変わりなくここにこしていたのでほっとした。集まった人々をみて、今更ながら松井さんの友人の幅広さに驚いた。「私は松井さんに拉致されてこの活動にひきずり込まれたのに……」と、運動を共にしている方々からの強烈なメッセージの数々で会場は大笑いだった。だんだん元気がでてきた。「励ます会」なのに逆にこちらが励まされてきた。とりわけ「女たちの戦争と平和記念館」建設の発想は松井さんならではの。これを実現させ、「平和をつくる活動の拠点」にしようという若い人の「決意表明」で会はなごやかに終わった。私は松井さんの笑顔を中心に刻み、「志を引き継ぐ一人に」と決意

して最終の「のぞみ」に乗った。12月27日、メールで訃報が流れた。赤いバラに囲まれた松井さんの笑顔が浮かんだ。「いと小さき者」の側にたつて権力と闘った松井さん、きっと多くの女性たちの心の中に生き続け、闘う力になるにちがいない。

(愛知県がんセンター図書室 本学夏季講座 受講生)

### 松井やよりさんの告別式に参加して

岩瀬 祥代

12月27日の午後、突然に入った松井やよりさんの訃報のメールに、瞼の裏に涙を貼り付けたまま、一緒に愛知淑徳大学で01年、02年と講座を受けた仲間たちと連絡を取り合い、嘆きを共有しました。この日がいつかは来るとあの発表以来、祈りながら過ごしてきましたが、とうとうそのメールが届いたのです。

メールに会場係、誘導係の募集がありましたので、告別式には教えを受けたひとりの生徒としてスタッフとして参加しました。

12月30日の告別式の日、スタッフとして100名以上の方が集まり、前日VAWW-NETの人たちが作った白いリボンをつけ、それぞれの持ち場につきました。会場となった東京山手教会は松井やよりさんのお父さんが開かれた教会で、天井がすーと天まで届くように高く、会場にはたくさんのお花が飾られ、松井さんの棺には真っ赤なばらの花束が置かれました。

午後12時30分から行われた告別式には全国から1000人以上の方が集まられました。松井やよりさんの友人代表として大津健一さん、富山妙子さん、武藤一羊さん、池田恵理子さん、久保田真紀子さんが松井さんの思い出を語り、決意を述べられました。96歳になられるお父さんの愛情あふれるメッセージ、妹のやゆりさんの肉親としての思い出など参加者の新たな涙を誘いました。参加者が全員、献花を済ませた後、棺は女性たちの手で車まで運びこまれ、多くの友人達が沿道に立ち、見守る中、松井さんに乗せた車は友人たちに別れを告げました。

告別式に参加し、松井やよりさんのまた新たな側面に接し、その大きさに触れることができました。松井やよりさんは病床にあって「女たちの戦争と平和資料館」建設の夢を私たちに託され、その思いは全国、世界に発信されました。私たち残されたものが、力を合わせその夢を実現していけたらと思います。

(豊川ぶらんの会会長 本学開放講座 科目履修生)



松井やよりさん葬儀 2002年12月30日 於東京・山手教会  
写真提供 アジア女性資料センター

# 愛知淑徳大学、ジェンダー・女性学関連の授業

## ジェンダーと社会1

長久手 前期 金曜 4限  
星が丘 前期 金曜 1限

講師 / 國信潤子

### 【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー(社会・文化的性)のさまざまな問題を考える。

### 【授業計画】

〔長久手キャンパス〕男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民衆交流の領域についてジェンダー(社会・文化的に形成される性別)の視点から開発途上国の現状について学ぶ。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。

〔星が丘キャンパス〕近年、公的文書などにもジェンダー(gender)ということが頻りに使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。ここ50年ほどの日本における女性の社会的地位の変容について社会学的データなどで紹介する。また法制改革、国際人権規約なども紹介する。

### 【テキスト】

〔長久手キャンパス〕特になし、随時配布

〔星が丘キャンパス〕『女性学・男性学～ジェンダー論入門～』伊藤、國信共著(有斐閣刊 2002年)

### 【参考文献・資料】

〔長久手キャンパス〕『ジェンダーと開発』田中、伊藤、大沢他 国際開発事業団出版2002年 2800円

〔星が丘キャンパス〕授業で随時紹介

## ジェンダーと社会2

長久手 前期 火曜 4、5限

講師 / 中島美幸、山下智恵子

### 【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、女/男規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)『女性の表現』の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師)現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 第2回 ことば とジェンダー
- 第3回 書く女の登場(1) 第4回 書く女の登場(2)
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
- 第7回 母と娘の物語(1) 第8回 母と娘の物語(2)
- 第9回 家族の物語 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化 第12回 まとめ

\*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【テキスト】教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】毎回の講義の際に紹介する。

## フェミニズム概論

星が丘 前期 水曜 5限

講師 / 中島美幸

### 【授業の概要】

よりよい社会を形成する一助とするために、女性と男性のあり方とさまざまな問題点を学ぶ。

### 【授業計画】

- 1. フェミニズムとは 2. フェミニズムの歴史
- 3. フェミニズムの歴史 4. 多様なフェミニズム
- 5. 日本のフェミニズム 6. 日本のフェミニズム
- 7. 日本のフェミニズム 8. 精神分析とフェミニズム
- 9. フェミニズム神学 10. フェミニズム文学
- 11. フェミニズム・アート 12. フェミニズム映画
- 13. まとめ

【テキスト】なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】授業の中で、その都度紹介する。

## 女性学・男性学

星が丘 前期 水曜 2限

講師 / 中島美幸

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業計画】

- 1. 女性学とは、男性学とは
- 2. 「女らしさ」「男らしさ」の諸問題
- 3. 男女のあり方の国際比較 4. 近代的性別分業
- 5. 女性と「お金」 主婦の誕生
- 6. 「働かない」「男性の人生
- 7. 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 8. 恋愛と結婚 9. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 10. 母になるということ、父になるということ
- 11. 2050年の日本の女と男
- 12. 男女のライフスタイル・将来展望 13. まとめ

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】授業の中で、その都度紹介する。

## 女性学・男性学

長久手 前期 木曜 3限

講師 / 井深淳子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういった課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

### 【授業計画】

- 第1回 はじめに 第2～5回 家族問題
- 第6～9回 子育て 第10～11回 現代の病巣
- 第12～13回 女性が働き続けることについて

【テキスト】女性学への招待(新版)(井上輝子著 有斐閣)

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

## 女性学・男性学

長久手 前期 夏期集中

2003年9月1日～9月4日 2限～4限 4日間

講師 / 伊藤公雄

### 【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

### 【授業計画】

- はじめに ジェンダー論入門
- 1. 女性問題の発展 2. 現代日本の女性問題
- 3. 男性問題の時代 4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
- 5. 体験の主夫論/働く主夫の生活と意見
- 6. ニッポンのお父さん/男性の育児をめぐる
- 7. 男性学と男性運動の展開 8. 試験

<参考図書> 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』(世界思想社)、伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』(有斐閣)

### 【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【テキスト】女性学への招待(新版)(井上輝子著 有斐閣)

男性学入門(伊藤公雄 作品社 1,680円)

## 女性学・男性学

長久手 前期 夏期集中

2003年7月30日～8月1日 1限～4限 3日間

講師 / 竹信三恵子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業計画】

- 第1回 戦後型男女分業と経済構造～高度経済成長から男女共同参画社会基本法までを概括し、男女の共同関係の新しいあり方をさぐる。
- 第2回 戦後型男女分業主義を支えたマスメディア～その機能と対抗法をメディア内部から分析。

【テキスト】授業中に指示する。

これらの講座履修・申し込み先

愛知淑徳大学エクステンションセンター

〒464-8671 名古屋千種区桜が丘23

受付日時(月～金)9:00～17:00

TEL/052-783-1665(直通) FAX/052-783-1621(直通)

ホームページアドレス <http://www.aasa.ac.jp>

編集後記

今号は12月に開催したシンポジウムと本学開放講座「女性学・男性学」の講師を担当していただきました故松井やよりさんの受講生から松井さんとの思い出を語っていただきました。4月より石田好江教授が新所長です。

ASU・IGWS2002年度  
運営委員: 石田好江、岡澤和世、國信潤子、  
富安玲子、平林美都子  
スタッフ: 山田清美